

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700018		
法人名	有限会社 富士建設		
事業所名	グループホーム ありがとう		
所在地	兵庫県美方郡新温泉町七釜329-1		
自己評価作成日	令和7年 2月 1日	評価結果市町村受理日	令和7年6月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームのコンセプトである”出来る事を出来る限りして頂く”(嫌なことは除く)様にして頂き、スタッフと共に朝から作業を進んで手伝ってくださる方もおられます。ユニットごとが家族の様に時には喧嘩もされますが、気が着けば仲直りをされ、笑顔でお話をされてます。ごく自然体の生活を送って頂いてます。季節柄ここ数か月、外出ができませんが雪が溶けて、暖かくなったら外気浴、お散歩、ドライブ等を楽しんで頂きたいと考えています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉ネット・川西
所在地	川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和7年2月21日

今年度は寒波の影響で雪深く、利用者の外出機会が確保しにくい状況があった。自立度の高い利用者が多く、活気ある日常を過ごしている様子が一目で見て取れる。昨年は利用者が立て続けに救急搬送・入院するなどの変化があった。肉親が心配をするように自然と話題に出ていた。管理者・ケアマネジャーは人を大切にする姿勢が確立しており、気遣いや尽力が至る所に見られる。職員の利用者への接し方はきめ細やかであり、自然に利用者への支援が暖かいものとなっている。次年度は外国人職員が数名入職予定となっている。併せて障がい者雇用も実施する予定がある。そのため受け入れについては現職員側の受け入れ姿勢が大きく影響されるものと推察される。全員が一丸となり、新しい「事業所家族」を迎える心で準備体制を整え「ありがとう」の本質がますます充実し、地域の一員として溶け込むことが期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第三者 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念として信頼関係を築けるケアサービスを提供すると共に、地域福祉に貢献するようにスタッフともども努めております。	法人による経営理念が事務所内に大きく掲示されており、事業所全体での支援目標として浸透している。今年度は、利用者の救急搬送や入院・退所等々が続き目まぐるしい日々を経験したが、その人らしい生活を大切に事業所の主軸がぶれないように努めている。	経営理念としてではなく、事業所独自の目標を職員全体で検討してはいるかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設入居者様も地域の住民との思いで、散歩時などは地域の方に出会った時は挨拶をしたり、雑談を交わしたりしてます。地域に少しでも貢献をさせて頂きたいとの思いで、散歩時にはゴミ袋を手に散歩しながら、利用者様もゴミ拾いをして頂いてます。	昨年に続き、地域交流や行事への参加はほとんどできていない。面会は特に制限なく自由にできている。外出を好む利用者との散歩の際には、ゴミ袋を手にし、出会った住民と挨拶をかわしたり、雑談したりして気分転換や外気浴を兼ねての交流の時間を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなかいかせられていません		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ここ4年程運営推進会議を開催できておりませんが、R6.11に町の民生委員さまがグループホームの勉強会と称して施設訪問していただき、施設の内容を報告させて頂きました。	運営推進会議の開催は出来ていないが、昨年11月に数名の地区民生委員の訪問を受け、「グループホーム」の勉強会として事業所案内・説明する機会を設けた。いろいろな質問を受け、質疑応答することで理解を深めてもらった。	この取り組みを足掛かりにし、地域包括の職員・市職員・地域の世話役・家族・利用者を招集し定期開催ができる工夫が求められます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った事が生じた時は報告、相談をさせて頂いております。	地域包括との連絡は頻回行っており疑問や質問が相談できる関係が築けている。地域包括からの研修案内を活用して、利用者同伴で参加をしている。「認知症世界の歩き方」や「生きてつらさを抱えた方にとつてのつながりや居場所の大切さ」等、興味深い講演を選んで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な事は理解してくださっていると思いますが、細かい虐待か否か判断が分かれるような内容は会議の時に皆で確認し合っております。	身体拘束に関する話し合いは職員会議に限らず、日常的に注意喚起できるよう努めている。きわめて頻尿の利用者については、夜間ポータブルトイレの設置や医師への相談も改善につながらなかったため、人感センサーを利用し経過観察中の事例がある。身体拘束防止の委員会や研修を通じ職員間での共通認識の統一を図っている。	

自己 評価	第三 項目	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議の時に研修を通して認識して頂き、日々の中でも注意を払う様にしています。	『高齢者虐待防止に向けた「施設従事者」のための自己チェックリスト』をもとに、職員会議の際に順番に声を出して読み上げ確認・検討しあっている。項目についての判断に迷う部分について互いに意見交換し、意識確認をしたうえで日常支援に活かしている。	研修報告書が作成されていないので今後、研修に関する報告書作成が求められます。
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会はできておりません。	現在、事業所内で日常生活自立支援事業や成年後見制度利用の該当者はなく、必要に迫られないため、学ぶ機会が持てていないまま経過している。制度の理解は必要と認識しているので今後、勉強会・研修をこなう予定がある。既成のパンフレットは、玄関の見えやすいところに置いている。	手始めにパンフレットを利用し職員の理解を深める研修が望まれます。
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居時に締結、説明も併せてさせて頂いておりますが、後でもご不明な点があればいつでもお問い合わせ頂くようにしています。	契約は管理者が担当している。説明は時間をかけて丁寧に行い、家族の不安や質問が理解・納得してもらえるよう努めている。家族からの質問は「いつまでここで世話になれるか」が多くある。ADL(日常生活動作)低下により車いすの利用が常態化するようなら当事業所での生活は困難になることを伝えている。家族が十分に納得・理解ができるよう、具体的に分かり易い説明を心がけている。	
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に”入居されるにあたって”といった用紙をお渡しし要望があれば記入して頂き、それとご本人の希望とを合わせケアマネがサービス計画を作成し、サービスに繋げております。	日常的な利用者の日々の様子や、状態変化があるときは電話で報告や相談を行っている。その際に家族からの要望を聞くことがある。情報はリアルタイムで職員が共有できるようにしている。事業所運営に関する要望はほとんどないに等しい。介護計画更新の際は意見を聞き、支援に反映するようにしている。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議の時に聞きしたり、個々で伝えてくださってます。	今年度、休憩時間の見直しを行った。時間をずらしながらも順番に取ることが定着している。休憩時間がしっかりとれることで「働きやすくなった」との職員の意見が聞けた。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・二次評価で個々の努力を評価して賞与等につなげさせて頂いています。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここ最近では外部に出での研修を受けて頂くことが出来ておりませんj。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の方々との交流をする機会を設ける事が出来ておりません。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーが個人的に話を聞いたり、要望を引き出すように努めてくれて、それをチーフに伝え改善を図ってくれております。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、介護保険更新時、様子が変わり介護度変更時にご家族様に直接お聞きしてサービス計画に反映させて頂いております。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、介護保険更新時、様子が変わり介護度変更時にご家族様に直接お聞きしてサービス計画に反映させて頂いております。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経営理念の中にも掲げているように、スタッフは一方的に介護する人される人ではなく、共に生活する人との思いで務めて頂いています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入ったら完全にお任せではなく、ご家族にも出来ることは協力して頂き利用者様に安心して生活して頂くようにしています。		
20 (11)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されるとご家族がお伝えされるようで、施設宛てにお手紙、年賀状が届いたり電話、面会にこられたりで馴染みの方との繋がりが途切れないように努めております。	事業所前の畑を耕している住民からの差し入れがある。利用者家族からの野菜の差し入れもある。面会は自由になっているが家族の面会は限られている。携帯電話を持つ利用者は、職員が支援するまでもなく自由に架電している。自宅への架電を希望する利用者へは、いつでも支援できている。自身で手紙などが書ける利用者にはほほいない。月に1回、担当者が利用者の日常の様子を知らせるコメントを送っている。	

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を見てトラブル等がみられたりするような席を離したり、居室の変更もさせて頂くことがあります。又ご飯、コーヒーの声掛けをお部屋に言って呼んで来て頂いたりして、コミュニケーションを図って頂いています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、退所先の方にその後の様子をお伺いしたりして把握に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	内容や頻度にもよりますが、できる範囲内でご本人の要望に沿わせて頂く(帰宅願望の方に自宅までおつれする等)様に努めております。	比較的、自分の意志や思いを言葉や行動で表す人が多く、その都度、職員は共に動き、思いを受け留めている。表しにくい人には、個別に寄り添い丁寧な話を聴くように配慮している。利用者同士が適度に距離をとり、穏やかに過ごせるよう職員が間に入るなど注意している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネジャーからの情報提供を出来る限り頂き経過の把握に努めております。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の日々の過ごし方、心身状況、有する機能の把握に努めております。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思い要望に、担当者の意見も併せてサービス計画、作成に繋げております。	主に、担当職員が日々の利用者の様子や会話を丁寧に観察することで、その人の思いやその人らしさを把握し、家族の意向も参考にしながら計画に反映させている。転倒予防等安全に気配りしながらも、本人の好きなことややりたいことを大事にするようにしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を記録し、日勤帯を夜勤に夜勤の事を日勤帯に報告し職員間で情報を共有しサービスに活かしております。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれないように、ご家族、ご本人のニーズに出来る限り応じて、柔軟なサービスに努めております。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(移動図書館等)を出来るだけ活用し楽しんで豊かな生活を送って頂くように努めております。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医をご家族に決めていただきその後の受診もご家族様と施設スタッフとで相談し、協力しながら努めております。	利用者及び家族の意向を優先し、これまでのかかりつけ医の受診を継続してもらっている。日々の健康管理を大事にしており、利用者の様子や行動から図れない体調面での変化や不調を予測し、かかりつけ医とは情報交換に努めるようにしている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師はおりませんので、異常がある時はかかりつけ医の師長さんに電話相談で指示を頂いたり時には受診に繋げております。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は、入院先の地域連携室の担当者様を確認して情報提供頂いたり、退院に向けての調整をお願いしたりに努めております。	できるだけ入院回避、早期退院を行うことで、利用者や家族の安心につなげている。やむをえない転倒骨折があった場合は利用者の意向を優先し、かかりつけ医と職員の連携のもと、事業所での生活リハビリに努めている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化を早めに見極め、変更申請をして重度化に向けてご家族と次の施設に向けての情報を提供して、施設側の様子などもお聞きしてなるべくスムーズに移動して頂けるように努めております。	契約時に事業所のできることを、できないことを明確にし、説明している。利用者の状態変化を早めに察知し、余裕をもって他施設への移行を進めている。利用者、家族が環境が変わっても不安なく安心して過ごせることを大事にしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最近では救命救急の講習会が出来てないため、出来るように努めて参ります。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35 (17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる防災対策をするように努めて参ります。	定期的な避難訓練を実施し、日ごろから職員だけでなく利用者も共に危機意識を高めるようにしている。特に夜間は職員間で密な情報交換、共有に努め連携を図れるよう注意している。運営推進会議がまだ未実施のため、近隣との協力関係は十分ではない。	事業所からの積極的な広報を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36 (18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した言葉かけをするように努めております。	排泄や入浴の際の声かけやお誘いの仕方には、その人に応じた対応を心がけ、羞恥心にも配慮するよう努めている。利用者の思いをまずは受け留め、共感し、寄り添うことを管理者は、ことあるごとに職員に伝えている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人のおもい、希望に沿った日常を送って頂くように努めております。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足やスキルが低い事で利用者様目線ではなく職員都合で合理的なやり方でしてしまうことがあり、希望に添えて無い事もあります。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様がご自身の持ち物の中でご自由に着たり、身に着けたりされておられます。		
40 (19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえを出来る方は出来る限りして頂き、食事を頂く際は××さんが剥いて下さったイモですよ等お伝えしながら味わって食して頂いてます。又皆さんが食べ終わった食器なので拭いて頂いています。	男性、女性に限らず、野菜の下ごしらえや魚の下処理、調理、味付けなど、利用者に関わってもらっている。得意なことややってみたいことを率先して関わってもらえるよう、職員は声かけを工夫している。旬の食材を随所に入れた季節感ある家庭の味を大事にしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量(ご本人の要望)持病に対しての食事内容(糖尿・腎臓)をなるべく考慮して提供させて頂いております。		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けでほとんどのかたは、洗面に行かれ口腔ケアをして頂けるのですが、中には嫌がられる方がおられ、うがいだけでもして頂くように努めております。		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の失禁の量、パターンを見てパット、パンツを選別し、使用して頂いて、コスト面からなるべく費用の削減になるように配慮させて頂いています。	利用者の習慣や癖を参考に、現状の能力に応じて職員は見守り、臨機応変な声かけなど工夫している。できるだけ清潔保持を意識し、失敗を減らしたりにおいにも気を付けるよう心がけている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは下剤等が主となっておりますが、食事からのサポートの必要性もあると思ひ、食物繊維、乳製品も出来るだけ食事に提供出来る様に心掛けております。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は施設の都合で決めさせて頂いてますが、お湯の温度に好みが多様なので、その方の好みによって入浴の順番の配慮をさせて頂いております。	土地がら温泉を楽しんでもらっている。利用者の生活スタイルに応じて声をかけたり誘導するなど、気持ちよく入ってもらえるよう心がけている。特に寒い時期は入りにくいので、寒さを感じないように温まってもらえるよう工夫している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムを尊重して休んで頂いています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の持病における服薬を把握し様子を見てわかる範囲での効果が見られない場合は、処方された病院に相談をして処方内容を変えて頂いたりしています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力でその方の生きる張、楽しみが得られる場合はなるべく家族様にご協力頂いて、難しい場合は施設で出来る範囲で楽しんで頂けるよう努力しています。(欲しいものを一緒に買いに行く等)		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節的に難しい時もありますが、希望があればご家族にお伝えしたり、ご家族が難しい場合は施設で出来る事はさせて頂いています。	季節に応じて、可能な人は周辺を散歩したり、時には職員も一緒に複数人で気分転換を図っている。通院の際に家族の協力で食事をしたり、寄り道することもある。今後は買物などの機会を増やしたり、職員に同行するなどの機会を活用して外出を勧めていきたいと考えている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは把握してはおりますが、利用者様同士でトラブルになったり、所持されていないはずの利用者様のポケットから紙幣が出てきたりと、管理が難しく入居時よりなるべく所持金はない方がよいです。とお伝えさせて頂いています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に対して電話希望がある時は、あらかじめ電話可能時間を家族様にお聞きしておき、その時間にかけてお話していただくようにしています。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節の貼り絵を皆で創作して貼り付けていきながら季節を感じて心地よく過ごせるよう努めております。	リビングには大きなソファが置かれ、食卓テーブルと併せ、気軽にテレビを見たり、会話が弾むなどなごやかに過ごせる雰囲気である。季節感のある掲示や日用品がところせましと置かれ生活感が溢れている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、男女関係なく気の合った人同士が同席して昔話を懐かしそうに語りあって過ごされることがよくあります。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居時家族様が持ち込んだものをそのまま使用して頂いてますが、使い慣れたものであったり、新品を持ち込まれたりされて徐々に使い慣れて頂くといった感じになっております。	利用者がこれまで生活してきた中で大事にしている好みの物や、普段使い慣れた日常の道具を身近に置いてもらうよう利用者、家族に伝えている。その人が安心して過ごせる環境を大事にしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全は配慮しつつ出来る事は、出来るだけして頂き、機能維持を続けて行って頂けるように努めております。(シルバーカーが限界に近い方がおられますが、歩行器をおすすめしても嫌がられる為見守りを強化してシルバーカー歩行を何とか継続して頂いています)		

(様式2)

事業所名: グループホームありがとう

## 目標達成計画

作成日: 令和7年6月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		自立の方が多いが、各々の思いに寄り添うスタッフの余裕がない	一日に一回は外へ出ていただく	時間を決めて外へ出ていただく時間を作る	6月
2		人間関係のトラブルが絶えない。	なごやかに過ごしていただく	食事の席の配置を考慮したり、起こった時にはスタッフが間に入って収める	6月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式3)

### サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取 り 組 ん だ 内 容	
実施段階		( ↓ 該当するものすべてに○印 )	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input checked="" type="checkbox"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input checked="" type="checkbox"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input checked="" type="checkbox"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input checked="" type="checkbox"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="checkbox"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input checked="" type="checkbox"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="checkbox"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="checkbox"/>	⑤その他( )